

循環器内科

虚血性心疾患、不整脈、重症心不全を含めた循環器疾患全般に対応しています。

すべて治療方針は、最新のエビデンスや合併疾患に伴う患者さんの予後などを総合的に考慮して決定しています。また三次救急病院として年間100例以上の急性心筋梗塞に対して24時間対応の体制で緊急カテーテルを実施しています。検査・治療手技の年間件数は、およそ CAG700例、PC380例（うち緊急240例）、カテーテルアブレーション280例、下肢動脈に対するカテーテル治療100例、ペースメーカー／ICDといった心臓植え込みデバイス手術120例となっています。また重症循環不全に対する治療として補助循環用ポンプカテーテル（インペラ）も使用でき、このような治療を駆使して、心臓血管外科・救急科とも連携しながら重症症例の治療も行っています。当院での循環器内科研修においては、習熟度に応じてスタッフと共に循環器疾患の検査・治療手技を幅広く習得してもらいたいと考えています。



第一循環器内科部長

橋口 直貴

日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定総合内科専門医、
日本循環器学会認定循環器専門医、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医

01 研修期間

2年間

02 目的

内科専門医取得に十全な臨床知識および経験をつみ、内科医として見識と自己研鑽能力の基礎を作る。またその基礎の上に循環器内科の専門医となる過程となるべき臨床経験をつむ。

03 到達目標 (目標、長期目標、一般目標、取得手技、コンセプト等)

- (1)内科専門領域の急性慢性疾患の全てについて主治医としてマネジメントができ、専門的診療についてもその適否が的確に判断できる。
- (2)内科救急領域で必要な全ての応急的対応・初期治療ができ、さらに専門的救急診療手技にも参加できる。このため全研修期間を通じ、急性心筋梗塞などの救急疾患に対して24時間拘束体制で対応するローテーションに参画する。この際には、循環器専門医を指導医としてのチーム体制を敷いている。
- (3)臨床医としての高い見識と広い視野を持ち、様々な条件の患者に対して、与えられた医療環境で最善を尽くすことができる。このため院内で行われる様々な医療に関する研修会に参加する。
- (4)内科学会認定内科医の資格を取得する。症例報告などの学会発表も積極的に指導し、認定内科医取得を目指して総合的な観点から日々の診療を行うよう指導している。
- (5)循環器内科医への臨床経験をつむ。心臓・血管系に関する豊富な知識と技能の習得を目指し、循環器疾患の適切な診断・治療及び予防ができる能力を有することを目標とする。

04 取得可能資格

学会名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本内科学会	日本内科学会認定内科医	日本内科学会教育病院
日本内科学会	日本内科学会内科専門医	日本内科学会教育病院
日本循環器学会	日本循環器学会専門医	循環器専門医研修施設
日本不整脈心電学会	不整脈専門医	日本不整脈心電学会研修施設
日本心血管インターベンション治療学会	心血管カテーテル治療認定医・専門医	日本心血管インターベンション治療学会研修施設

05 研修期間中に経験する症例・習得すべき手技

- 急性心筋梗塞、狭心症、うっ血性心不全、不整脈、大動脈瘤・大動脈解離、肺動脈血栓塞栓症、閉塞性動脈硬化症、心筋症、感染性心内膜炎
- 心臓カテーテル検査、PCI、カテーテルアブレーション、末梢血管形成術、ペースメーカー／ICD／CRT手術、IVC filter留置、IMPELLA管理、心エコー、運動負試験